

登録コード:MH170400 開講年度:2026		授業科目区分	保健師コース 必修
科目名	公衆衛生看護アセスメント論【20M～24M】 Assesment of Public Health Nursing		
担当教員	五十嵐 久人 他 石田 史織・富澤 真澄		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	2単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	地域診断に必要な情報とそれらを分析する方法を理解できる。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	地域診断を通して地域の特性や健康課題を見出す方法を理解できる。
	MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	地域診断に必要な情報とそれらを分析する方法を理解できる。 地域診断を通して地域の特性や健康課題を見出す方法を理解できる。
授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	地域で生活する個人と家族、集団、コミュニティを理解し、支援するための理論を学びます。 特に、EBN・EBMに基づいた地域アセスメントから地域診断を行う実践レベルの演習を通して、地域看護活動のための基礎的知識および方法を習得することを目的とします。 本授業は、2年次に学んだ「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生学」、3年次に学んだ「公衆衛生看護支援論Ⅰ」「疫学保健統計」を基礎知識として進める授業となります。 本授業は、担当教員の地域における保健師、看護師、企業内専門職としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回 地区把握とは 第2回 地区把握とは 第3回 地区視診 第4回 地区視診 第5回 地区視診まとめ 第6回 地区診断（情報収集） 第7回 地区診断（情報収集） 第8回 地区診断（分析） 第9回 地区診断（分析） 第10回 地区診断（アセスメント） 第11回 地区診断（アセスメント） 第12回 地区診断（問題・課題の抽出） 第13回 地区診断（計画） 第14回 地区診断（計画） 第15回 地区診断まとめ 授業アンケートの実施 ※4～5月に集中講義で実施する為、日程が決まり次第連絡します。また、初回の授業で授業計画や進め方などのガイダンスを行います。		
授業の進め方	公衆衛生アセスメント論は、健康科学論、公衆衛生学、医療社会学、保健・医療・福祉政策論、疫学・保健統計などの授業を基盤として、看護学（基礎・成人・老年・母性・小児・精神）についてすでに学んだ内容をリンクさせながら、少人数のグループによる参加型の学習です。 各科目をリンクさせた学際的・統合的なプログラムになっています。 ・少人数グループを編成し、地域診断の学習をしたうえで、既存の疫学・統計データ等をグループで調べ、地域の概要を把握します。 ・次に、実際に地域に出かけて、地域視診を行います。住民と話す機会を得ることもあります。 ・既存のデータと地域視診の結果、加えて実際に住民へのインタビュー調査等を総合的にとらえて、地域アセスメントを行います。 ・アセスメントから地域の問題・課題を抽出し、それらへの対策を立案します。 ・アセスメントの過程をまとめ、発表およびレポート作成を行い、学びを深めます。 ・配付資料は事前にeALPSにアップするので、各自で持参して下さい。		

テキスト，教材，参考書	標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 国民衛生の動向 ほか、取り組む学習に必要な参考書や資料が用意されており、適宜閲覧しながら学習することができます。
成績評価の方法	成績評価は、発表（中間・最終）（50点）、グループレポート（50点）による評価とし、評価点の総計が60点以上を合格とする。 (1)中間発表（25点）：評価基準(i) (ii) (iii) の内容とそれらへの取組や参加姿勢、グループ内での協力状況を総合的に評価する (2)最終発表（25点）：評価基準(iv)(v)(vi)の内容とそれらへの取組や参加姿勢、グループ内での協力状況を総合的に評価する (3)グループレポート（50点）：評価基準の(i) (ii) (iii) (iv)(v)(vi)の内容を総合的に評価する これら(1)-(3)から100点満点で、評価点の総計が60点以上を合格とします。
成績評価の基準	(i) 地域アセスメントに関わる基礎知識を十分理解できており、(ii) 適切なアセスメントができており、(iii) その結果、妥当な問題・課題が抽出できており、(iv) それらの課題に対して、解決法を把握し、(v) その上でグループの見解を提示できており、(vi) 保健師の役割を含めた、具体的な解決方法の計画を立案することができ、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (vi)の6項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。5項目までできていれば「やや上にある（良）」。4項目までできていれば「水準にある（可）」。 秀：100－90点 優：89－80点 良79－70点 可69－60点
事前事後学習の内容	公衆衛生看護アセスメント論は、健康科学論、公衆衛生学、医療社会学、保健・医療・福祉政策論、疫学・保健統計などの授業を基盤として、看護学（基礎・成人・老年・母性・小児・精神）についてすでに学んだ内容をリンクさせながら、演習による授業を進めます。各科目を別の内容と捉えずリンクさせて授業に臨んでください。 授業で学習した項目や提示された内容について、インターネットや文献等を用いて、学習を深めていただけることを期待します。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間60時間（4時間×15回）＝ 90時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	オフィスアワーは随時です。学外指導等で留守の場合がありますので、あらかじめe-mailで在室をご確認ください。 質問への対応：五十嵐久人 higaras@shinshu-u.ac.jp 石田史織 Shioriis@shinshu-u.ac.jp 富澤真澄 masumitmw@shinshu-u.ac.jp